

全国ノーリフティングポスター発表大会
in第2回高知県webふくし総合フェア



ノーリフティングケアから描く食支援

～おいしく安全に食べるケアで日本を引っ張る組織を目指して～



社会福祉法人 横浜市福祉サービス協会
特別養護老人ホーム 横浜市浦舟ホーム
介護リーダー 太田純平



施設紹介とポスターの流れ



○概要

- ・定員82名
(本入所74名、短期入所8名)
- ・従来型特別養護老人ホーム(4ユニット)
- ・平均要介護度 約**4.64**
(全国平均3.9)※H30厚労省

○特徴

- ① **認知症重度**の方が多い
(認知症高齢者の日常生活自立度Ⅲ以上が70%以上)
- ② **医療依存度**が高い方が多い
(喀痰吸引、胃ろう、インスリン注射、在宅酸素、褥瘡処置、ストマ、バルーンカテーテル等)



○個別ケアでの関わり

ノーリフティングの研修を受講した介護リーダーを中心に個別のお客様との関わりで実践する

○ノーリフティングケアを基本とした

食支援の新しいカタチを法人内外に広める

○体制作り

ノーリフティングケア推進委員会を中心として体制を整える

個別ケアから始まったノーリフティングケア

二人抱え

リフト

6
か
月

スライディング
シート

4
か
月

つかまり
立ち



60
kg



身体面

緊張緩和
職員の腰痛予防

重心移動
体幹・下肢筋力

自分の力で
立ち上がる

心理面

ゆっくり
職員と話せる

そんな方法が!?
やってみようか!

自信
「立てた!!」

9年前。学校を卒業したての私は“ノーリフティング”という言葉を知らず、**持ち上げることは、当たり前**だと思っていた。

5年ぶりに座って排便できたお客様の姿をみて、「**良くなることもあるんだ!**」と教えていただきました。

あの時の一言が、私の介護の原点です。

〇様。78歳(当時)。要介護5。60kg。脳性麻痺。

自宅で転倒し、頸椎症になったことで移乗が全介助となり、浦舟ホーム本入所となる。

移乗が全介助で長年、毎晩ベッド上でおむつに水様便を出していたが、「本当は座って出したいんだ」という思いがあった。取り組みのなかで、徐々に足や体幹の力がつき、ポータブルトイレに移れるようになった。5年ぶりに座っての排便をして一言。**「あースッキリした! 最高だ。」**

車いすも自走式となり、移動や口腔のケアもお一人でできるようになった。

ノーリフティングケアは、 食べるケアにも繋がっている

体

3. 立てる

2. お尻を上げられる

1. 足底をベッド
につけられる

食

3. 自分で
食べられる

2. お皿を持てる

1. 手が少し動く



K様。要介護度5。統合失調症。全盲。幻視あり。

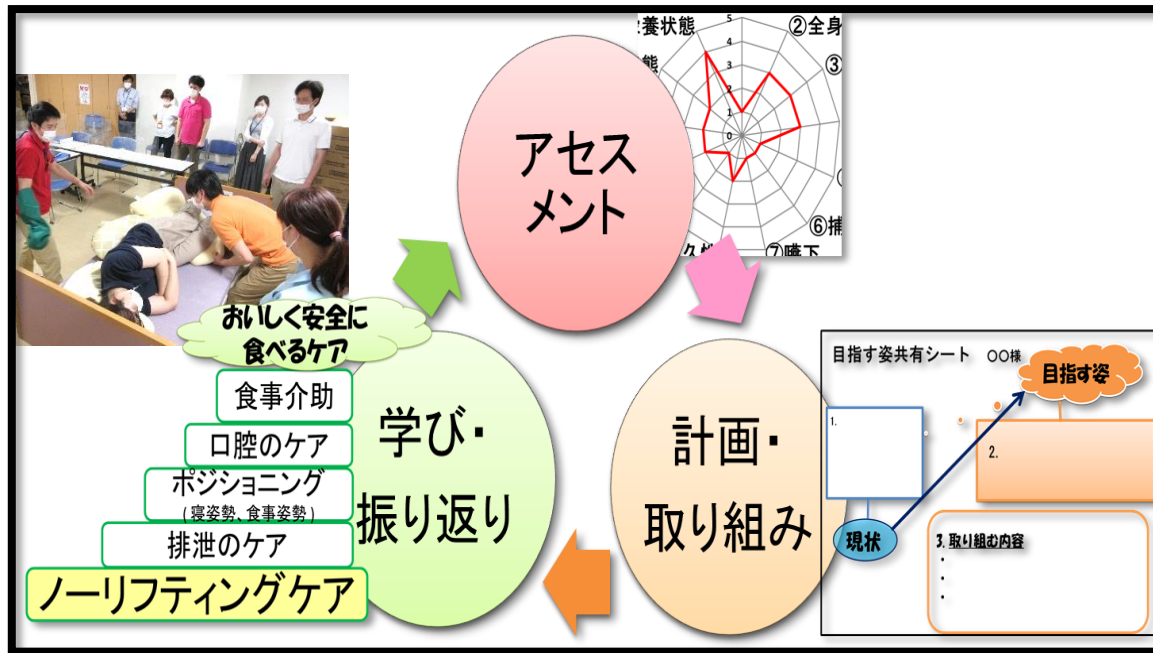
入所時、仰向けに寝たまま動かず、声掛けにも反応がなかった。
ノーリフティングケアの寝返りを繰り返すうちに、足底がつけられるようになり、臀部を上げ、自分の足で立ち上がれるようにまで良くなった。

「体」の状態と合わせて、「食」の状態にも嬉しい変化があった。

全介助だった食事が、一皿ずつ自分で召し上がり、「おいしい」と笑っていただけるようになった。

**ノーリフティングと
食支援をあわせて
個別ケアを進める
委員会を発足！**

目指すのは、おいしく安全に食べるケア



＜包括的ケア委員会＞

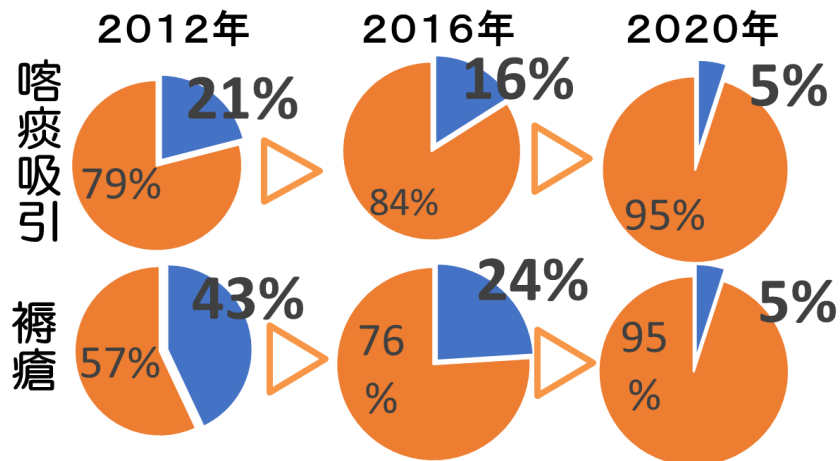
多職種でのアセスメントから、目指す姿共有シートを作成。「食べるケア」を5つのSTEPに分け、毎月委員会で学び、計画に落とし込み、実践することを繰り返す。

3か月おきにアセスメントを見直すことで、嬉しい変化を共有している。

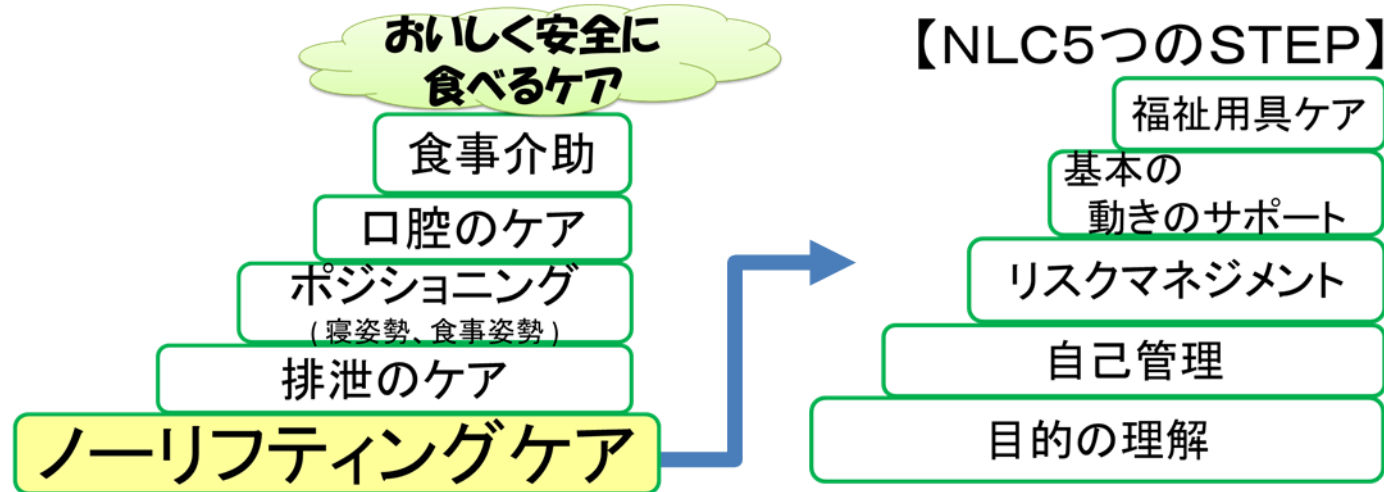
＜委員会の成果＞2015年～

- アセスメントの評価が良くなった方 8割
 - 胃ろうから経口摂取に移行した方 5名
- また、口から食べることで、吸引や褥瘡の処置を必要とする方の割合が減った。

吸引や褥瘡処置をしている方の割合



ノーリフティングケアを土台とした 食支援のカタチを全介護職員に研修



詳しくは研修センターの
ブログ記事をチェック！



法人の他の施設でもノーリフティングを広めるため、**2年前**に新採用職員向け、**1年前**に6年目職員までを対象に研修を行った。

今年度は、法人の**中期経営(5か年)計画**にノーリフティングケアを位置付け、3つの特養ホームすべての介護職員に研修を実施。

「おいしく安全に食べるケア」を実践するためのノーリフティングケアを体系的に学んでいる。

※講師は、NLC指導者養成セミナー修了者

※経験年数で5グループに分けて各2～4回の研修(半日or1日)

＋別途 プリセプター職員、中途採用職員向けにも実施

法人外からも依頼を受け 研修を行っています

- 健康ルームわっか
(デイサービス)
- ケアサービス コパン
(居宅介護支援)
各5回シリーズ
- 片平長寿の里(特養)
他 法人内介護事務所など

新採用の職員も、様々な福祉用具を使いこなしています！

新採用職員の声

2か月ごとに
研修で成長を
実感できてう
れしい

リショーネ



Panasonic
離床アシストロボット
リショーネPlus

スライディング グローブ



Paramount Bet
マルチグローブ

スライディング シート



ウィズ介助らくらくシート

介護は力がな
くてもできる
ことに驚いた

フレックス ボード



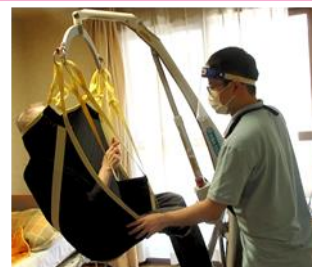
オアシス MSC
フレックスボード

立ち上がり リフト



Paramount Bet
ミニリフト125

移乗用 リフト



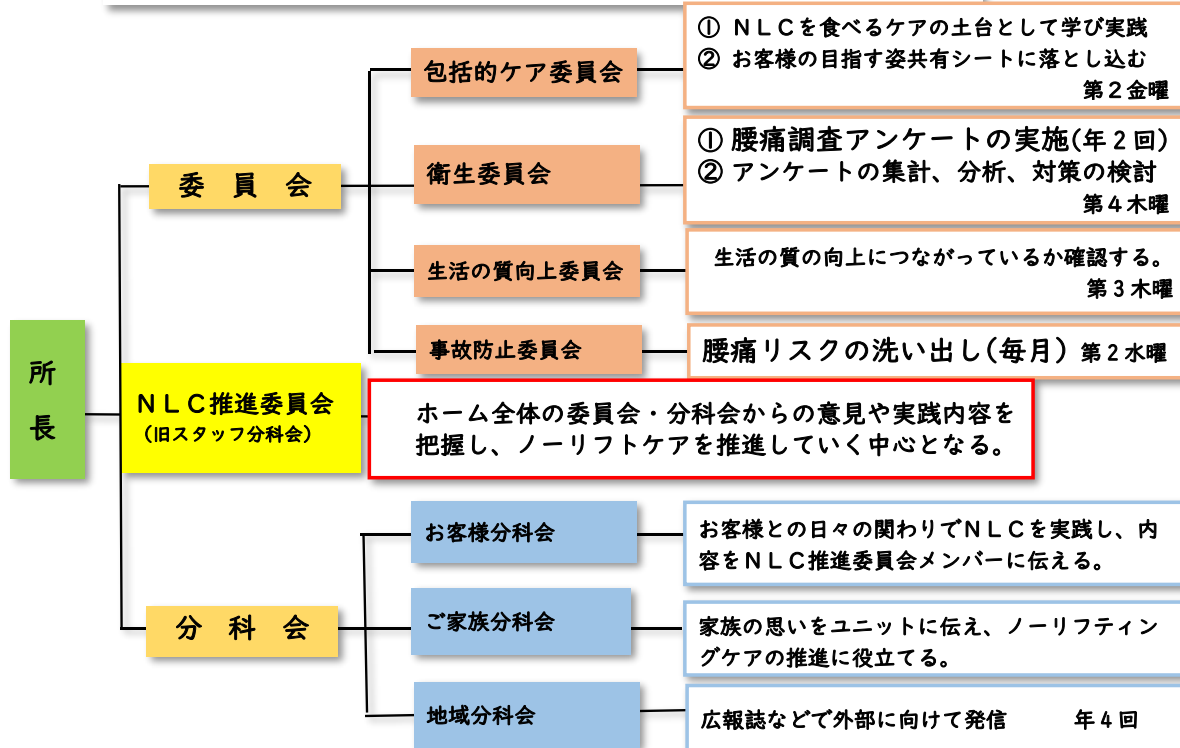
は・ん・ど
床走行式電動介護リフト
KQ-771

日頃からわか
らないことは
先輩に教えて
もらっている
が、研修で改
めて確認がで
きた

リフトなど機械
の操作が覚えら
れるか不安だっ
たが、今となっ
ては機械の方が
安心と思う

体制作り

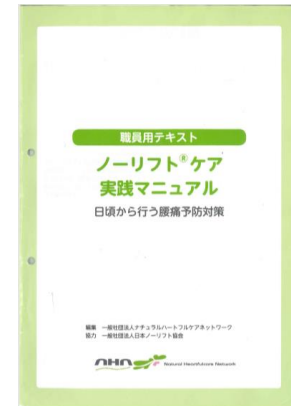
横浜市浦舟ホーム ノーリフティングケア体制図



施設の指針をもとに、 組織の体制図を作成。

ノーリフティングケア推進委員会

・ノーリフティングケア実践マニュアルを使い、STEP1(目的の理解)～STEP3(リスクマネジメント)までのポイントを共有。確認テストを行い認識の統一を図っている。



←実践マニュアル
私達のバイブル

・洗い出した腰痛リスク(ひやりはっ)への対応を共有したり、困り事の改善策を検討している。

・腰痛調査アンケートの実施(年2回)

食支援で日本を引っ張っていきける 組織を目指して



管理職110名が
ノーリフティングケア
マネジメント研修を受講。

在宅、施設、
ケアプラザ全体で
取り組める準備
が整った！

【私たちの思い】

浦舟ホームでは、10年前からノーリフティングケアに取り組んでいます。私たちは、技術や考え方を学び、実践するなかで、嬉しいことに仲間も増えてきました。しかし、体制づくりの重要性に気づき、整え始めたのはここ数年のことです。「もっと早くできていれば…」と痛感しています。いくら技術のある人がいても、いくら思いを伝えても、**みんなでノーリフティング**に取り組むためには、**体制づくり**が大切です。

3つある老人ホームで話し合い、12月上旬までに、①統括マネジャー、②教育担当、③技術指導者、④個別アセスメント・プランニング担当、⑤福祉用具管理担当を含む具体的な体制図を作ることに決めました。今後、さらに働きやすい職場を作って、**食支援**で日本を引っ張っていきけるような組織を目指します！